

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3893500060
法人名	社会福祉法人エンゼル
事業所名	グループホームエンゼルなかがわら
所在地	愛媛県伊予郡松前町中川原168番地1（電話）089-984-7666
自己評価作成日	平成25年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成25年2月4日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

職員は喜怒哀楽を共に味わえるよう日々の生活を援助している。利用者は自分で出来ることを確認し料理・掃除・洗濯など家事全般を職員とともにやっている。職員は常に話し合い、利用者本位での支援・寄り添ったケア・グループホーム独自の理念に沿った援助を行うよう心がけ、様々な習慣・行事を計画・実施している。90代から60代までの18名が一緒に生活することで教え学んだり、価値観・生活歴の違う方々を受け入れ理解しようとする姿が見られている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●利用者が若い頃使っていたと思われる道具や風景をプリントした「ひもときカレンダー」や、懐かしのスターの大きな写真を居間の壁に飾っておられる。ホール入口には、利用者の誕生日プレゼントにご家族からもらったピンクのチューリップの花束が飾られていた。大型テレビが設置されており、紅白歌合戦の録画を皆でみて楽しめることもある。カラオケは、土・日曜日に楽しまれており、音を抑えるよう配慮されている。

●看護師資格を有する職員が常勤で配置され、医療連携体制の充実が図られた。事業所では、この一年の間に、2名の利用者の看取りを支援された。職員は、利用者のことを気に掛け、勤務以外の時間にも様子を見に来られたり、ご家族も泊まりがけで付き添われる等して、みなで見送られた。現在、利用者やご家族は、「急変時、救急搬送しても、落ち着いたらホームに戻って最期を迎えたい」という希望が多いようだ。

## V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11, 12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		○ 1. ほぼ全ての家族と ○ 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
				○ 1. ほぼ毎日のように ○ 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
				○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
				○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				○ 1. ほぼ全ての家族等が ○ 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

### I. 理念に基づく運営

### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームエンゼルなかがわら

(ユニット名) あじさいユニット

記入者(管理者)

氏名 中矢 康子

評価完了日

H25年 1月 20日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 家族や地域の方々との連携を深められるようホーム独自の理念を掲げ、入居者の状態に合わせた援助を行っている。理念を基にユニット会・全体職員会(月2回)等にて話し合いを持ち、援助に努めている。 (外部評価) 事業所移転前から「ひとりひとり、その人らしく、笑顔で楽しく」と理念を掲げておられる。すべての職員で、理念の中にある「その人らしく」について、話し合われたが、捉え方も幅が広く、分かり難さを感じられて、現在、分かり易い言葉を探す等して、理念を検討しているところである。	すべての職員で、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作り上げて、職員、ご家族や地域の方々とも共有しながら、実践につなげていかれてほしい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) ホーム独自のパンフレットを作成し見学の方々・申し込み者に配布している。また地区の祭りや行事に参加し少しずつ地域の方々との交流を図っている。 (外部評価) 利用者が地域の文化祭や運動会に出かけて楽しめるよう支援されたり、中学校から総合学習やボランティアを受け入れる等して、地域とのつながり作りに取り組まれている。又、事業所建物内の「交流ルーム」は、地区の「生きがいサロン」としても使用されており、管理者とキャラバンメイトの職員3名で、認知症についてお話するような機会を持たれたこともある。秋や春のお祭りには、神輿や獅子舞が事業所まで来てくれ、その際には地域の方達を2階に案内して、ホームの生活の様子をみていただいた。	事業所は、地域の方達に事業所のことや利用者を知っていただきたいと取り組んでおられるが、地域性のこともあって、関係作りには難しい面もあるようだ。今後はさらに、50～60歳代の方を対象にした認知症講座も計画されている。今後も、事業所のできることをいろいろと探りながら、地域とのつきあいに取り組まれてほしい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) スタッフ会・運営推進会議などを通して地域の役員・町の担当者と話し合い、交流が図れるような場を設けるよう話し合いを進めている。今年度は北伊予中学校の3年生の総合学習の一環として月2回の訪問があった。地域の方へもキャラバンメイトの勉強会を開催し、認知症の理解を深めた。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に一度開催している。事業所での取組み・テーマについて話し合いを実施し、各担当者・利用者・家族の要望、意見を聞いている。また家族・担当者からの意見を職員間で共有しサービスの向上に繋げていけるよう話し合い・実行している。	
			(外部評価) 会議時には、区長から、地区行事の情報を教えていただいたり、又、事業所から発信する情報を地域の方達に伝えていただく等されている。ご家族から、掃除について意見があった際、事業所では、午前・午後と掃除を行なうことを決め、ご家族にも報告をされた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 月に1度介護相談員の方が2名来所し、1時間ほど利用者・職員と交流を図っている。またグループホームの行事・施設全体行事にも来所して頂き、普段の利用者の姿を見ていただけるよう努めている。	
			(外部評価) 町の担当者の口添えもあって、北伊予中学校の3年生が総合学習の一環として訪問してくれるようになった。訪問時、事業所からは、認知症について知ってもらえるよう説明等をされ、生徒は、利用者と一緒にゲーム等して過ごされた。地域包括支援センターの呼びかけで、町内3グループホームが集まる機会を作ってくれており、意見交換や研修等を行っておられる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束は行っていない。身体拘束廃止マニュアルを作成し、廃止委員会を月に1度開催し、職員の意識向上を施設全体で取り組んでいる。	
			(外部評価) 入居日の夜、利用者が落ち着かない状態で、転倒の危険が高い場合には、急遽「見守り要員」を確保する等して、危険回避に努めておられる。長期的には、ご家族と話し合っ身回りの危険因子を遠ざけたり、センサーを設置したり、ドアに鈴を付ける等して、夜勤職員がご本人の動きに気付けるよう工夫をされる。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) スタッフ会・法人全体の会議等で虐待の有無についての報告を行っているが、高齢者虐待防止関連法についての勉強会などは行っていない。全職員の研修及び勉強会を開催・参加することで、制度への理解を深めるよう努める。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) ホーム内掲示板に資料や相談窓口を掲示しているが、入居時等ご本人及び家族等に対する説明が十分に行えておらず、制度の活用推進ができていないと言えない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所時には、重要事項説明を十分に行い、家族・利用者と共に納得のいくまで話し合いを実施している。退所時には家族・利用者・その他の関係者と十分に話し合いバック体制を整え、介護添書の作成・援助計画書の添付などを行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ホームエレベーター前に苦情受付箱を設置し、月に一度介護相談員の方々に報告している。苦情が寄せられた場合はマニュアルに沿って速やかに対応・回答を行う。法人全体としても要望・苦情解決委員会を開催し、頂いた要望・苦情が反映できるようにしている。 (外部評価) 各ユニットの居間には、職員の名前や顔写真を掲示した「職員紹介」のコーナーを設けておられる。事業所移転後、最初の「家族交流会」は、みんなで楽しく過ごせるよう企画された。2年目となる今回は、個別に面談の時間を設け、職員は、ご家族とお話する機会を作られた。ご家族からお聞きした内容が、利用者の気持ちを知ることにつながったり、その後のケアに反映されることもあったようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 法人側、かつ管理者との話し合いの場を持ち検討している。自己申告書の活用・スタッフ会での要望・提案について書類を提出後、職員との話し合い検討・実施している。	
			(外部評価) 職員からの要望もあって、管理者は「管理職に徹する」こととなり、事業所全体をみたり、職員の話も聞くことができるようになった。さらに、法人には、副施設長という役職が新設され、現場の声が早く法人に届くようになった。事業所は、乾燥する時期に濡れタオルを室内に掛けて加湿を心がけておられるが、さらに職員から「アロマを使うことで鎮静効果を得られないか」と提案があり、現在、試みておられるところである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者はホームを訪問しては、職員に声掛けを実施し日々の業務についての報告を聞いている。年2回の自己申告書等により本人の希望・実績・個々の努力について把握している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修に参加する機会を設け、職員を段階に応じて資格が確保できるよう援助し、個々のスキルアップに繋げている。(管理者研修、実践者研修、GH相互研修、リーダー研修に参加)	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 市町村の開催する研修にできる限り参加している。管理者は「グループホーム管理者交流会」などに参加し、他グループホーム管理者との交流を図っている。職員はグループホーム相互研修に申込み、職員の派遣・受け入れについて話し合いを進め実施している。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所申込時、家庭への訪問を行い、本人とゆっくり話す機会を設けている。体験入所などを実施し、会話や行動より悩み・不安などをくみ取る。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家庭への訪問・事業所への訪問時家族が困っていること・求めていることを聞き出し、受け入れられるよう対策を検討している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時、本人・家族に最も必要なことを見極め、事業所全体・他業種の方々の意見を仰ぎ、幅広い視野から対応を検討していくよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 料理作りを一緒にしたり、行事の作法等についての助言を頂いたりすることで喜怒哀楽を共にしている。利用者に温かく接し、学んだり支えあったりしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者の暮らしや生き方を理解・尊重することで、家族と情報を共有し、信頼関係を築いていく。行事等には職員と一緒に参加して頂き、喜怒哀楽を共にし、家族と一緒に利用者を支えていくようにしている。年に1回家族交流会を開催し、家族・職員・利用者の関係を築いている。(H24. 11. 18開催済)	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族との繋がりを大切にし交流する機会を多く持つようにしている。馴染みの方々との連絡・交流が切れないように通信(電話)は自由に出来る環境を確保している。 (外部評価) 「家族交流会」時に得たご家族からの情報が、現在の利用者の言動をひもとくことにつながった面も多々あり、職員は、利用者の気持ちをさらに理解することにつながったようだ。事業所では、正月や法事等、ご家族が集まる場所に利用者も出向き、懐かしい人達に会う機会を作れないかと、ご家族に相談されているが、ご家族の理解や協力につながるまでには時間を要するようだ。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士で話し合えるような話題を提供したり、料理や行事への参加を促している。常に見守りを行い、トラブルになりそうな場合は、職員が間に入り孤立しないよう配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 同施設の他事業所を利用される方には、定期的に訪問し、親しい関係を維持できるよう努めている。他施設・家庭に戻られる方には家族・利用者が孤立せず、様々なサービスが受けられるよう情報の提供を行っている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者の障害が進むにつれて変化があり、本人の意向が把握出来難いこともある。職員が利用者と深く係わることで、利用者の意向をくみ取れるように努めている。また家族交流会で利用者の状態を説明し、家族・利用者の意向を話し合う機会を設けている。 (外部評価) 入居時に知り得た情報に加え、特に利用者個々の担当職員が日頃のかかわりから分かったことや、ご家族との面談で得た情報をアセスメント表にまとめて、1年毎に更新されている。「ご家族の希望」「家族関係」「していること・できること」等、特に「利用者は口にされないが、本心はどうなのだろうか」と思いを巡らすことを心がけておられる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時や家族面会時・職員との談話の中で、生活歴・馴染みの暮らし方について話を伺っている。また現状調査をファイルにすることで職員全員が把握でき、いつでも閲覧できるようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの利用者に関わる中で、生活リズム・心身状態の把握・「出来ること、出来そうなこと」の把握に努め、職員全員が情報を共有するよう連絡ノートを活用、スタッフ会での話し合いを進めている。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			利用者及び家族と話し合い、要望・希望を取り入れながら、介護計画を作成している。月に1度のスタッフ会で利用者一人ひとりの課題やケアの在り方について、意見を出し合いながらカンファレンスを行い、内容の共有を図っている。	
			(外部評価)	
			ご家族の来訪時を捉えて一緒に話し合い、計画を立てておられる。職員やご家族が利用者にかかわる中で、必要性の高い項目から計画し、長期的には利用者の本来の希望である「定期的に自宅に帰る」という目標等をご家族の同意を得て、実現できるように計画されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			個別にファイルを作成し、日中は黒、夜間帯は赤で記録し誰が見ても分かりやすいように日々の現状を記録している。また連絡ノートを活用したり、口頭での申し送りを徹底し情報伝達が確実に出来るようにしている。介護計画については、毎月1回のスタッフ会にて確認・評価を行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			2ヶ月に1度開催している運営推進会議に参加していただいている地域包括支援センターの職員に意見を伺ったりしているが、実際に他のサービスを利用するには至っていない。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			毎月介護相談員の来所・消防訓練等を実施している。また学生やその他ボランティア等の受け入れ、近隣の幼稚園・小学校などとの交流を行うことで広がりのある生活が出来るよう計画し、今年度は北伊予中学校との交流を果たした。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入所時に入居者・家族等の希望を聞いている。契約しているかかりつけ医院と電話やメールで相談が出来るようになっている。また必要時には往診も可能である。	
			(外部評価) 以前からのかかりつけ医や協力医等、利用者やご家族と話し合って受診できるよう支援されている。協力医は、月2回の往診があり、個別のかかりつけ医にはご家族が通院介助をされている。何かあった時は、電話やメールで指示を仰げる体制が作られている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 常勤の看護職員1名と連携を取りながら利用者の健康状態について支援している。夜間の急変については看護職員、管理者、介護職員が対応している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院時にはこまめに病院(担当医)や家族と連絡を取り、早期退院のための話し合いや協力を行っている。利用者が安心して病院で過ごせるよう頻回にお見舞いに伺い、精神的安寧が図れるよう努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 利用者の今後の重度化・終末期の在り方について、家族・利用者の意向をお聞きし文書にて確認した。かかりつけ医とも話し合いを行い、グループホームとしての指針を決定した。 マニュアルも作成し職員の情報共有に努めている。	
			(外部評価) 看護師資格を有する職員が常勤で配置され、医療連携体制の充実が図られた。事業所では、この一年の間に、2名の利用者の看取りを支援された。職員は、利用者のことを気に掛け、勤務以外の時間にも様子を見に来られたり、ご家族も泊まりがけで付き添われる等して、みなで見送られた。現在、利用者やご家族は、「急変時、救急搬送しても、落ち着いたらホームに戻って最期を迎えたい」という希望が多いようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署の救命救急講習を母体施設と共に職場内研修にて実施している。勉強会も不定期ではあるが職員会で実施している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 法人として半年に1度消防署による日中・夜間を想定した避難訓練を実施している。(H24.4.17、9.24実施済) 独自の災害マニュアルを作成している。	
			(外部評価) 夜間の火災を想定した避難訓練を実施されているが、地震想定での避難は話し合いの段階となっている。事業所では「自然災害時等には、地区の避難拠点となる可能性が高い」と考えておられ、米やカセットコンロ等、備蓄の充実を考えておられた。	今後は、自然災害を想定した避難訓練も繰り返して取り組まれてほしい。事業所が地域にできることを伝えたり、又、地域に協力してほしいことを発信する等して、いざという時に地域と協力し合えるような体制を作っていかれてほしい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個々の人格を尊重・威厳が守れるように配慮し、温かくゆっくりとした口調で声掛けするようにしている。居室に入る際には必ずノックを行い、本人の了解を得てから入室するようにしている。記録に関しては個人名を記載したりせず、プライバシーに配慮している。	
			(外部評価) 職場に行くつもりで出かけていく利用者の方には、ご本人がホームに戻る気持ちになるまで、職員と一緒に歩くよう取り組まれている。管理者は、「ゆくゆくは、地域に顔見知りの方を増やし、利用者1人で出かけても気付いてもらえるようになる」ことを目標にしておられる。トイレ入り口にのれんを掛けて、トイレのドアを閉めることに抵抗がある利用者のプライバシーに配慮されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活において自己決定を尊重しており、本人の希望や意見を取り入れている。声掛けも決めつけるようなことをせず、利用者に納得・決定していただくようにしている。障害が進むにつれ、入居者自身が選ぶことが日常的に少なくなっている方もおられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 1ヶ月の行事・1日の大まかな日課は決まっているが、毎朝の健康状態を把握したり、本人の希望を聞くことで外出などを適宜行えるような体制をとっている。職員体制・本人の希望があれば近くの商店へ買い物に行くこともある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 家族と相談し定期的に美容院を利用している。毎朝モーニングケアを実施し、清潔保持に努めている。衣類は本人と一緒に確認しながら選び、季節に応じた身だしなみ・おしゃれができるようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 入居者とともに調理(簡単な作業のみ)を出来る限り行っている。入居者・家族の意見を参考にし、好物の料理・誕生日料理・季節の行事食等の調理を行っている。会話や音楽を取り入れ楽しい時間を過ごしていただいている。 (外部評価) 調理の下拵えや下膳、食器洗い等、職員は、利用者のできることを促しながら一緒に食事にかかわれるよう支援されている。「白い茶碗にごはん」等、食器の色によっては食事を残す場合がみられることや、食器を落とす方がおられることを踏まえて、現在は、全員、濃いベージュやピンクの色付きプラスチックトレイに食事を盛り付けておられる。「食事を楽しむ支援」という観点から食事のしやすさや喜び等について、今後もいろいろな人の意見を集めながら、工夫を重ねていかれてほしい。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々の好みや食事量を把握し、食事摂取量・水分摂取量のチェック表を活用しながら十分な栄養・水分がとれるよう配慮している。その日の健康状態・摂取状況に応じて食事形態などを工夫し支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアを行い見守り・介助している。就寝時には義歯の洗浄を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を作成し、一人ひとりの排泄リズムを把握し活用している。他利用者に配慮しながら声掛け・トイレ誘導を行い、排泄の失敗がないようにしている。	
			(外部評価) 排泄チェック表を付けながら観察することで、利用者個々のトイレに行きたい時のサインや、水分摂取量・気温等によっても頻度が違うこと等も分かってきて、一人ひとりに応じたトイレ誘導につながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェック表で排便を確認している。排便がない場合は水分摂取・ヨーグルトや繊維質の多い食べ物の摂取・散歩などの適宜な運動、個々に合った下剤などを主治医と相談しながら排便コントロールを行っている。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日お湯を沸かし、健康状態に異常のない方は入浴できるようにしている。マンツーマン入浴を行い、希望者には入浴剤の使用や季節浴(ゆず・菖蒲など)を行っている。夜間入浴を希望される方がおられるため職員の勤務時間体制を整え、対応している。	
			(外部評価) 利用者個々に、週3回くらい入浴できるよう支援されている。職員が1:1で入浴介助して、浴槽の中の高さをすのこで底上げしたり、浴槽の縁の高さに合わせた台を設置して、個々が安全に入浴できるよう支援されている。又、ゆっくり入浴できるよう会話等にも配慮されている。夕方の入浴を希望する方もあり、職員配置等も工夫して支援されている。ゆずや菖蒲等、季節のものや入浴剤を入れて気分を変えたり、香りも楽しみながら入浴できるよう工夫されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 入居者全員ほぼ良眠している。夜間眠れない方には日中居室で休息していただいたり、その方に合わせた生活時間(食事・入浴)を過ごしていただいている。	
			(外部評価)	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬表を作成し、ファイルすることで職員全員が把握できるようにしている。服薬時には本人確認・薬の裏の名前確認を行い、誤飲がないようにしている。薬はスタッフルームにて保管・管理している。利用者の症状の変化については、かかりつけ医の支持を仰ぎ、服薬支援を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 家族・ご本人より趣味・生活歴などを聞き、楽しみごと、気晴らしができるよう個別に支援している。一人ひとりに役割を持っていただき、張り合いのある日々を送れるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 体調・天候を考慮しながら園庭、近隣への散歩を実施している。買い物の同行など個々の希望に応じた外出を行っている。日常の会話の中で個々の希望を聞き出し、ドライブや外食など要望に応じた計画・実施ができています。  (外部評価) 外出は、天候と利用者の体調を見ながら支援されている。春や秋には、非常階段から降りて庭の芝生でお茶を楽しまれたり、少人数で事業所の周辺を散歩されたり、ご家族が来られて一緒に散歩に出かける方もいる。又、毎年、故郷のそうめん流しに出かけられるよう支援されたり、桜やつつじ・菊の花見、動物園や海等へのドライブにも出かけておられる。	利用者一人ひとりの行きたい場所や会いたい方を探りながら、外出支援の取り組みを工夫されてはどうだろうか。ご家族とも相談しながら取り組みをすすめていかれてほしい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 施設の方針として預り金等の現金を扱わないようにしている。家族の同意のもと小銭入れに少量の現金を持たれたり、買い物時や商品納入時にお釣りの計算をしていただいたりしてお金の大切さを理解していただいている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話や手紙の返事などは援助を最低限に抑えて出来る限り本人に行って頂くようにしている。はがきや封書など必要物品は利用者とともに用意するよう配慮している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 入居者が集まるホール、廊下にソファを用意し、好きなところでテレビを見たり話ができるように配置している。冷暖房等の温度調整・カーテンの開閉による日差しの調整を行っている。季節行事にかかわる作品を展示したりして生活感・季節感を取り入れている。トイレ等の混乱を招かないよう様々な言葉での表記を行っている。</p> <p>(外部評価) 利用者が若い頃使っていたと思われる道具や風景をプリントした「ひもときカレンダー」や、懐かしのスターの大きな写真を壁に飾っておらる。ホール入口には、利用者の誕生日プレゼントにご家族からもらったピンクのチューリップの花束が飾られていた。大型テレビが設置されており、紅白歌合戦の録画を皆でみて楽しめることもある。カラオケは、土・日曜日に楽しまれており、音を抑えるよう配慮されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) ホール内・廊下にソファを配置し、利用者同士・家族との談話が持てる居場所を確保している。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 使い慣れた生活用品を自由に持ち込んで頂き家庭的な雰囲気作りを心掛けている。また写真や趣味の物を飾ることで心地よく過ごしていただけるよう援助している。</p> <p>(外部評価) 自室が分からなくなる方には、入口に大きく名前を表示して分かりやすくされている。ベッドから転落の心配がある方には、床に布団を敷いて休めるようにされたり、ダンスを動かそうとする方はご家族と相談してご自宅に持ち帰ってもらう等して「安全な環境」を大切にされている。日記を付ける方には、ペンを用意され、絵を描く方には色鉛筆をすぐ使えるよう、目につくところに用意されている。鏡台を見ながら身だしなみを整える方もおられる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 一人ひとりの生活歴を把握し、利用者ができること・得意なことを行って頂き、自信を高めるよう努めている。トイレ・お風呂など明確に掲示し、混乱を招かないよう配慮している。ベランダ・他事業所への入り口を開閉し自由に入出入りできるようにしたり、手すり・安全な家具の配置を検討したりして自立した生活が送れるよう工夫している。</p>	